

緊急時個別対応票

様式5

写真貼付

クラス	フリガナ 名前	性別	生年月日

原因食品

原因食品を食べた後に起こる症状

原因食品	発症年齢	症状

誤食時の薬	内服薬	なし・あり()
		保管場所 ()
	エピペン	なし・あり()
		保管場所 ()

毎日使用する薬	内服薬	なし・あり ()
	外用薬	なし・あり ()

保護者連絡先	名前・名称		続柄	連絡先	保護者への連絡 1. 食物アレルギー症状出現状況 2. エピペン及び緊急時預かり薬使用、救急搬送または医療機関受診についての了承または事後報告 3. 保護者が来園または搬送先または受診先に来れるか確認
	1				
	2				
	3				
	4				

指定救急機関	救急	119	準備しておく情報 1. 患者の基本情報 (生年月日・性別・既往歴・現病歴・かかりつけ医療機関・主治医の指示内容) 2. アレルゲンと食物アレルギーによるアナフィラキシー症状 何時に、なにを、どのくらい、食べて(触れて等)、どの症状がいつから現れているのか 3. アナフィラキシー症状への対応方法 (エピペン使用有無・処方有無等) 4. 意識状態、呼吸状態(脈拍数・呼吸数)
	所管消防署	名称/Tel	
	主治医	医療機関名 医師名 Tel 診察券ナンバー	
	搬送先医療機関	医療機関名 医師名 Tel 診察券ナンバー	

園内線 施設長連絡先	場所	氏名	内線	連絡先
	施設長机			
	職員室			

食物アレルギー症状が出たときの対応

即時型食物アレルギー症状が出た時の対応

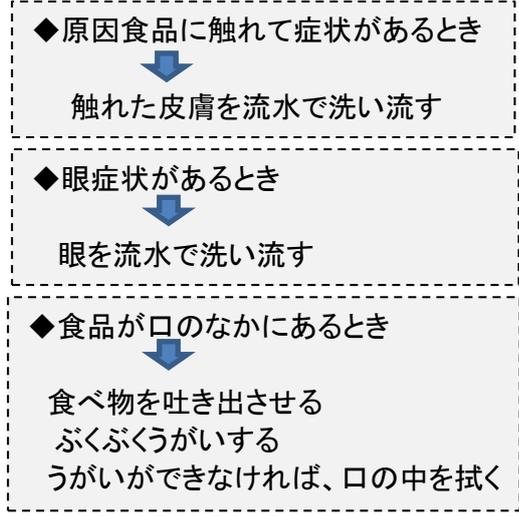
即時型食物アレルギー症状が出た場合は、以下のフローチャートに従い対応してください。ポイントは以下のとおりです。

◆5分以内症状の重さを見きわめ、それに応じた対応をする

*症状は緊急性が高い順(①→②→③)で見てください。特に①(緊急性が高いアレルギー症状)を見逃さないようにしてください。

◆少なくとも5分ごとに、繰り返し症状を観察する

*即時型食物アレルギー症状は進行する可能性があり、最初は軽い症状でも「緊急性が高いアレルギー症状が見られることもまれではありません。症状が改善するまで、少なくとも5分ごとに繰り返し症状を観察してください。



◆迷ったら、エピペンを使用する

◆症状は、急激に変化する可能性がある

◆「緊急性が高いアレルギー症状」が1つでもあてはまる場合は、エピペンを使用する

緊急性が高いアレルギー症状	
全身の症状	<input type="checkbox"/> ぐったり <input type="checkbox"/> 意識もうろう <input type="checkbox"/> 尿や便を漏らす <input type="checkbox"/> 脈が触れにくいまたは不規則 <input type="checkbox"/> 唇や爪が青白い
呼吸器の症状	<input type="checkbox"/> のどや胸がしめ付けられる <input type="checkbox"/> 声がかすれる <input type="checkbox"/> 犬が吠えるような咳 <input type="checkbox"/> 息がしにくい <input type="checkbox"/> 持続する強い咳き込み <input type="checkbox"/> ゼーゼーする呼吸
消化器の症状	<input type="checkbox"/> 持続する強い(がまんできない)お腹の痛み <input type="checkbox"/> 繰り返して吐き続ける
目・口・鼻・顔面の症状	<input type="checkbox"/> 顔全体の腫れ <input type="checkbox"/> まぶたの腫れ
皮膚の症状	<input type="checkbox"/> 強いかゆみ <input type="checkbox"/> 全身に広がるじんま疹 <input type="checkbox"/> 全身が真っ赤

① ② ③

上記の症状が1つでも当てはまる場合

1つでも当てはまる場合

◆意識の確認

- ・乳児の場合、足の裏を叩いて大声で呼びかける
- ・幼児の場合、肩を叩いて大声で呼びかけ反応を確認する

◆呼吸の確認

- ・10秒以内で、胸とおなかの動きを確認する。
- ・普段どおりの呼吸をしているか確認する。
- ・しゃくりあげるようなとぎれとぎれの呼吸、肩を大きく使うような呼吸は、努力性の呼吸です。

◆注意事項

- ・決して、子どもを一人にしない。急変する可能性があるので、決して目を離さず、症状を絶えず観察する。
- ・基本的には、その場で安静にさせ、観察及び初期対応を行う。
- ・移動させる場合は、複数人で横抱きあるいは担架で運ぶ。背負ったり、縦抱きにしたりしない。

①ただちに**エピペン®**を使用する

②救急車を要請する(119番)

③その場で安静を保つ

④その場で救急隊を待つ

⑤可能なら内服薬を飲ませる

ただちに救急車で医療機関へ搬送

①内服薬を飲ませ、**エピペン®**を準備

②速やかに医療機関を受診(救急車の要請も考慮)

③医療機関に到着するまで少なくとも5分ごとに症状の変化を観察。
 の症状が1つでも当てはまる場合、**エピペン®**を使用

速やかに医療機関を受診

①内服薬を飲ませる

②少なくとも1時間は、5分ごとに症状の変化を観察し、症状の改善がみられない場合は医療機関を受診

安静にし 注意深く経過観察

安静を保つ体位

ぐったり、意識もうろうの場合

血圧が低下しているおそれがあるためおむけで足を15～30cm高くする

吐き気、おう吐がある場合

おう吐物による窒息を防ぐため、体と顔を横に向ける

呼吸が苦しくおおむけになれない場合

呼吸を楽にするため、上半身を少し起こし後ろに寄りかからせる

- ◆エピペンを使用しても、反応がなく呼吸がない場合は、心肺蘇生を直ちに行う
- ◆エピペン使用と同時に、AEDを用意しておく。